

第1学年2組 算数科学習指導案

平成18年11月17日（金）第3校時

1 単元名 たすのかな ひくのかな

2 単元の見どころ

加減の演算を適切に選び、立式・計算ができる。

- ・進んで、たし算になるのかひき算になるのかを考えようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・数量の関係に着目して加減の用いられる場面を判断することができる。 (数学的な考え方)
- ・たし算やひき算に関する演算決定問題を解くことができる。また、たし算やひき算の問題をつくらることができる。 (表現・処理)
- ・たし算やひき算の意味の理解を深めることができる。 (知識・理解)

3 単元について

繰り上がりのたし算、繰り下がりのひき算までの学習を終えて、たし算ひき算の演算決定の力を伸ばす単元である。たし算を習った後だからたし算ばかりだと思ひこみ、よく読まずに式を立てたり、文の中の数字はすべて必要なものであると思ひこみ、選択することなく用いたりすることが、しばしば見られる。そこで、児童の主体的な判断によって演算決定や立式を行わせることが必要であるとのねらいから本単元が設定された。

また、これまで、「あわせていくつ ふえるといくつ」「のこりはいくつ ちがいはいくつ」のそれぞれの単元の後に、場面の絵を見て、たしざんになるお話、ひきざんになるお話作りをしてきた。本単元は、それらの学習をふまえ、絵の中から必要な情報を取り出し、問題作りをすることもねらう。

4 児童について

演算決定については、「あわせて」「ふえると」「のこりは」についてはほとんどの子ができるようになってきた。しかし、「ちがいは」についてはまだひき算の場面とはっきりとらえられない子が5～6人いる。問題作りについては「あわせて」や「のこりは」などの言葉を使って、たしざんやひきざんになるお話は、少しずつ言えるようになってきている。しかし、頭の中では分かっているが、お話として組み立て、正しい言い方で言うところまではいけない子が多い。

5 指導について

これまで、演算決定の時、ブロックや手の動き、たし算になる言葉、ひき算になる言葉に注目させるようにしてきた。本単元では、たし算になる言葉がなくてもたし算の場面になる問題を解くので、言葉だけに左右されないで、場面の様子をしっかりとらえさせるようにしたい。

作問の際には、1まいの情景図から、たし算になる問題もひき算になる問題も作ることをねらうので、どんな数があるのか丁寧にとらえてから問題作りに入りたい。また、今まで学習した問題のパターンを示し、どの問題を作るか決めてから、それに必要な数を選ぶようにさせたい。言葉の使い方をつまづくことが予想されるので、言葉の使い方を支援したワークシートを用意することで、自分の力でやれたという達成感を持たせ、基礎基本の定着をはかりたい。

友だちに問題を出してヒントを言ったり、友だちの問題を解いて自分の問題と比べたりすることで、楽しく問題を解き合いながら、考える力を伸ばしていきたい。また、中学校よりの「小学校で身につけておいてほしい力」をふまえ、算数のお話作りに親しませることにより、文章題に対する抵抗を少しでもなくしていきたいと考える。

6 指導計画 (全3時間配当)

時	学 習 内 容	ね ら い	関	考	表	知	評 価 規 準
1	たし算になる問題、ひき算になる問題を解く。	場面をとらえて演算決定をし、問題を解くことができる。	○	◎		○	場面をとらえ、手の動きで確かめて、演算決定ができる。正しく立式・計算ができる。

